

一 (一〇〇点)

問一 ①成熟 ②努 ③ふへん ④網羅 ⑤しよしゅう

⑥突 ⑦めいう ⑧超（または越） ⑨締（または閉） ⑩励

問二 a 手紙 b 評価される c はつきりと d 全部読み通せば

e 飽きて投げ出したりしない（または、疲れることがないような）

問三 「全集」とは文字どおりには全てを集めるこ

とだが、世界中の文学作品を完全に集めるこ

とはできないから。（49字）

問四 時代が変わり、文学が多様化し、全てを読む

ことが不可能だと明らかになり、読者の価値

観も多様化したため。（50字）

問五 かつてのカノンは、その時代の文学的権威と

目される専門家が決めた公的に価値を認めら

れた作品群であり、それを読めば、本当に読

むべきものはすべて読んだという満足感を得

られる「世界文学全集」の形で示すことがで

きるものであった。だが、ダムロッシュは、

現代では世界文学を一定のカノンの枠組みと

してとらえること自体が間違っていて、それ

を読者がどう読むかという「読み方」にかか

わるものだと考えている。（192字）

問六 Bは常体だけが、Aでは敬体・常体が混在している。

Bにはない終助詞「ね」が使われている。

Bの「巨大な」に対して、Aでは「すごい」が使われている。

Bの「不可能だ」に対して、Aでは「できっこない」が使われている。

発話の間を示すための「……」が使われている。 などのうち3つ。

問七 作家名 夏目漱石

作品名 こころ（「こゝろ」または「心」でも可）

理由 人間心理の複雑さが表現されていると思うから

教科書に出ている誰でも知っている文豪だから

など。

三 (六〇点)

問一 ①まったく(少しも) ②大勢(たくさん) ③心配なこと

問二 A きこえ 謙讓語 語り手から御女への敬意

たまひ 尊敬語 語り手から三位中将殿への敬意

B きこしめし 尊敬語 語り手から源氏の左大臣殿への敬意

C 聞こえ 謙讓語 語り手から源氏の左大臣殿への敬意

たまへ 尊敬語 語り手から母上への敬意

問三 三位中将殿は普通の人とは違う立派な人と思われる方です。

*この君||三位中将殿、道長、など。

「ただならず」の意味に肯定的なニュアンスがあること。

問四 三位中将殿が左大臣家の婿になることがよくないことでしょうか。

*このこと||三位中将殿(道長)が左大臣家の婿になること(娘と結婚すること)。

「やゝありける」疑問または反語の係り結びがきちんと訳せていること。

問五 あべいこと…あるべきことの撥音便とイ音便

思いたり…思したりのイ音便

問六 「おはしけり」の「けり」は文末なので終止形だが、「おはしける」はその前に係

助詞「なん」があるので、連体形で結ばなくてはならず、連体形「ける」になっている。

三 (四〇点)

問一 より ざる

問二 紹蘭目「観堂中有二双燕」戲於梁間、

問三 爾に憑りて書を附して我が婿に投ぜんと欲す。

問四 湘中

問五 紹蘭の婿が家を離れてから何年も帰ってこないの、紹蘭は心配になり、燕が紹蘭の婿のいるところを通るのを利用して手紙を届けてもらおうとしている。